

※創刊号から五十号までの投稿者および
タイトルを総集した。タイトルの下方の
数字はそれを掲載した号である。

※タイトルの上に示した数字は投稿数で
あるが、一編のみの場合、繁多を避ける
ため数字の1は省略してある。

※これまでの総投稿者数は二百二十六人、
総テーマ数は九百八十九編となっている。
改めて玉稿を寄せてくださった先人・
今人の筆者諸氏に感謝申し上げます。こ
れからも史談会に多くの参加をお願いし
たい。

あ

赤瀬川 琴
本会に対しての所感

雨田 雅子

戦後六十年目の節目に当たりて

2

49

① 荒井 和子
② 真赤な昼の太陽
桜島と私

49 48

① 有馬 純勝
我が家の歴史を造ろう
② 家の精神を打ち樹てたい
③ 齊家と家憲

8 7 6

有村 栄助

① 桜島と城山

② 古くから伝わる郷土の地名

③ 想い出

④ 萩原家の家譜考

16 15 14 13

有村 純久

牛根地区の戦争終末状況

48

有村 光博

弥五郎どん

7

池田 秀一

① 岩川航空基地について
② 生命永らえて

49 48

池田 盛秋
鹿児島大空襲の悲劇

48

① 池袋 クミ
② 思い出
終戦直後の思い出

48 43

池袋 静江
① 居世のみやしる
② 池田湖めぐり

7

池袋 たか

① 浅間山遠望

② 秋芳洞

③ ツルバミの音

④ 吾息

⑤ 随想

⑥ 讃歌

19 17 16 14 13 12

石踊 二男

① 記念碑「大浜電信局之跡」に寄せて	27
② 鹿屋市打馬・平原間の道路	29
開削工事について	
③ かごしま太陽博覧会の中止始末記	30
④ 我が家のルーツについて	32
⑤ 嫁盗み	34
⑥ 水稻伝播雑考	35
⑦ 大根占電信局職員服務心得について	36
⑧ 私の韓国ノート	37
⑨ 鹿屋打馬の春日神社について	38
⑩ 神能面渡り祭	39
⑪ 大根占電信局職員宿舎について	41
⑫ 上野原遺跡について	43
伊地知 栄次郎	
① 大関・千歳川の歌	1
② 物の始め(郷土にて)	1
③ 高須の板碑	2
④ 落花生物語	2
⑤ 佐多町郡の史蹟	2

⑥ ほととぎす	2
⑦ 串良擾乱記の一節	2
⑧ 鹿屋擾乱記	3
⑨ 島津久信伝	3
⑩ 川踊句読歌	3
⑪ 久章年譜	4
⑫ 答申書	4
⑬ 殉職しそこないの記	4
⑭ 鷹直神社の御田植え神事	5
⑮ 江戸勤務日記	5
⑯ 特攻隊	5
⑰ 天明二年の飢饉	6
⑱ 肝付氏の研究	6
⑲ 肝付氏研究(上)	7
⑳ 肝付氏研究(下)	8
㉑ 新城島津家古文書の一部	10
㉒ 島津岩子夫人頌徳碑文	10
㉓ 門割り句読	11
㉔ 大隅民謡	11
㉕ 古事落穂	11
㉖ 用水路の由来	11

市来 家隆	
① バウロ・弥次郎の生涯	1
② 肝付の郡名考	15
③ バウロ・弥次郎は池端弥次郎重尚——切支丹渡来の地は根占	16
④ 島津庄開拓史の史料	19
⑤ 島津庄開発史(2)	21
⑥ 〃 (3)	22
⑦ 辺田七人衆 石井氏小考	22
市来 政賢	
琉球渡海日記	29
稲村 博文	
益畑遺跡(串良町) 概要報告	47
井原 政純	
① 島津庄における弁済使について——歴史的品格とその役割	34
② 大隅地方における在地構造の史的考察	37
③ 同右——大隅国図田帳を中心に	41

④	幕末・明治初期の 大隅における郷校・小学	48
⑤	同右 (2)	49
⑥	同右 (3)	50
⑦	薩摩歴史探訪	50
⑧	—— 郷中教育について 体育の授業の始まりについて	50
①	今釜 行雄 大東亜戦争の思い出	48
②	クニ叔母さんのこと	50
①	井元 正流 種子島刀工について	10
②	松寿院夫人と沖のガンギ	11
③	木曾川治水工事と種子島	12
④	丁丑戦役に種子島より 従軍せる兵士の見たる西郷翁	13
⑤	英医ウィリスと種子島	14
⑥	祢寝戦争について	15
⑦	種子島と大友家	16

①	岩切 シツ 御塚講由来記	47
②	(高須・新村集落 江口政盛) 貧乏と戦争	48
	上園 政夫 ふるさと回顧・十五人集	27
	上田 ヒデ 我が学び舎は燃え尽きて	48
	内山 輝男 隼人断想	25
	宇都 静枝 熊野神社の再建について	45
	宇都 為秀 島津忠将の戦闘	3
②	普宅和尚について	4
③	披露書集について	6

④	薩隅日の鉄砲鍛冶の分布について	7
⑤	平田三五郎の詩	7
⑥	島津忠将公墓参拝記	8
⑦	鹿児島県嚆矢の土木史料	10
	閨野 志郎 ① イッコシユガエ (一向宗通い) ② オカッサンドン (笠祇神社) の思い出 ③ 農民の苦しみ・下級武士の苦しみ ④ 二八〇〇人の兆散 ⑤ 特異な屋久町郷土誌 ⑥ 志布志廻船の鳥島漂流 ⑦ 串間市大東に住み着いた人々 ⑧ 串間市大東の小字名	47
	江蔵 成子 ① 悲しい思い出 ② 戦時中の学校生活	44
	江口 主計 ① 昭和の雪山	34

- ② 内之浦の商店街サカドについて
 ③ 肝付氏の名将・葉丸出雲守
 ④ 中部大隅の地形と地質
 ⑤ 剣持家の系図について
 ⑥ 現代について
 ⑦ 内之浦の林業(1)
 ⑧ 大隅半島への熱き思い
 — 神戸四郎
 ⑨ 大賀ハスと国分重春先生
 ⑩ 少年のころへの追憶
 ⑪ 自然の災害
 ⑫ 小字「石の中」について
 ⑬ 岸良の林業について
 江口 清淳
 徳川時代末期の種子島・安城村
 海老原 行秀
 ① 東隅地方の古代文化
 ② 鹿屋院雑掌・兼信と
 名越地頭との争議
 ③ 志布志大慈寺に伝わる古文書

2 2 2 14 50 49 49 48 48 47 40 39 38 37 36 35

- ④ 東隅地方の古代文化(2)
 ⑤ 中世以降における救仁院の興亡
 ⑥ 志布志山宮神社の文化財について
 ⑦ 大慈寺の文化財
 ⑧ 蓬原郷の成り立ち
 大岡 弓彦
 私の文芸コレクション
 大窪 清吉
 ① ふるさと大窪の探訪記
 ② わが戦中期
 ③ 虜囚の丘・シベリア抑留記
 ④ 姫ヶ野に生きた一農婦の生涯
 ⑤ 高山町後田・大窪の秘伝について
 ⑥ 高山かくれ念仏こぼれ話
 ⑦ 高山町後田南部台地の生活用水
 ⑧ 焼畑農業と昔の暮らし
 ⑨ 山の神信仰について
 ⑩ 従軍の思い出
 ⑪ 文化財保護について
 大久保 千サ
 申良の空襲
 — 紙一重の生と死
 小川 亥三郎
 辰喰
 小幡 晋
 ① 三位入道・兼統
 (海野草太郎ネーム)
 ② 驟雨
 ③ 若き日の兼統(1)
 ④ " (2)
 ⑤ 私説 大隅地名考
 ⑥ 若き日の兼統(3)
 ⑦ 大隅地方の庚申について
 ⑧ 若き日の兼統(4)
 ⑨ 鹿屋周辺その他の石造文化財
 ⑩ 大隅・日向古城壘跡名録
 ⑪ 薩摩国中世古城壘跡名録
 ⑫ 隼人山塞考
 ⑬ 小説 八幡大菩薩(1)

40 39 38 37 35 34 33 32 31 30 29 14 5 4 3 3 3

- ⑬ 小説 八幡大菩薩(1)
 ⑫ 隼人山塞考
 ⑪ 薩摩国中世古城壘跡名録
 ⑩ 大隅・日向古城壘跡名録
 ⑨ 鹿屋周辺その他の石造文化財
 ⑧ 若き日の兼統(4)
 ⑦ 大隅地方の庚申について
 ⑥ 若き日の兼統(3)
 ⑤ 私説 大隅地名考
 ④ " (2)
 ③ 若き日の兼統(1)
 ② 驟雨
 ① 三位入道・兼統
 (海野草太郎ネーム)
 小幡 晋
 辰喰
 小川 亥三郎
 申良の空襲
 — 紙一重の生と死
 大久保 千サ
 21 19 18 17 16 16 15 15 14 14 13 11 3 8 48

③③	小説 旅愁	32
③②	鹿兒島の地名考	32
③①	風雲平房の城(4)	31
③①	古代ロマン 火の降る国	31
②⑨	鹿屋を中心とした肝属・曾於の 庚申分布について	31
②⑧	関ヶ原小池の座禅陣	30
②⑦	小説 風雲平房の城(3)	30
②⑥	幻の肝付運河	30
②⑤	小説 風雲平房の城(2)	29
②④	日向国の県(あがた)考	29
②③	物語 真夏の雲と砦	28
②②	物語 驟雨	28
②①	私説 クマソ・ハヤト女酋考	27
②①	小説 風雲平房の城(1)	27
①⑨	遺跡発掘におもうこと	26
①⑧	須恵器への幻想	26
①⑦	小野派一刀流兵法の書	25
①⑥	" (4)	25
①⑤	" (3)	24
①④	" (2)	23

③④	中国詩情の旅	33
③⑤	ある旅について	34
③⑥	海賊大将・新五郎(1)	35
③⑦	" (2)	36
③⑧	イタリアの旅	39
③⑨	郷土史随想 早春散歩	41
②	先祖との出合い	37
①	垣内 清次	5
②	水分神之碑	5
②	蓬原開田記念碑	5
①	柿元 東	1
①	一筋のこころ	1
①	出水風について	20

①	孝子碑	10
②	馬耕兄妹と東串良の米作り	27
①	加塩 英樹	47
①	投谷八幡神社奉納和歌の 参加者について	47
②	月野城の歴史と 月野榛谷氏について	48
①	大隅牛根郷の平野屋敷に潜居の 宇喜田秀家の足跡を訪ねる	31
②	始良庄を開発した平判官良宗を 始祖とする得丸一族について	32
③	笠之原台地開発のあしあと	33
④	田の神様よもやま話	34
⑤	磯吉橋物語	34
①	市成郷土史の一端	5
②	市成・蓮成寺の沿革	7

③ 市成・蓮成寺沿革史	8	③ 七十四年前の修学旅行	18	① 神田 三男	2
④ 谷田観音 柏木の伝説	12	④ 明治初期の初等教育	19	② 根占用水路の歴史	3
⑤ 郷土の文化財	13	川野 静子		③ 根占町の櫓について	4
唐鎌 祐祥		軍用機墜落	48	④ 宮田城跡	
① 鹿屋市文化遺跡地図 (1)	47	河俣 寅雄		⑤ 中世初期における	17
② " (2)	48	① 垂水丸の遭難を思う	45	⑥ 南隅辺境の在地領主について	
③ 鹿屋郷の村落	49	② 文鎮	45	⑦ 建部姓衿寝氏と	18
假屋 和雄		神田 宏太郎		⑧ 菱刈氏との争論について	19
私の残したい戦争記録	49	① 元寇の役による		⑨ 根占地方の平家落人伝説	20
川上 渡		衿寝氏に対する勲功賞	25	⑩ 中世初期・中期の田代氏	21
知られざる一式陸上攻撃機の最後	25	② 元寇防塁と大隅	26	⑪ 建武新政と	22
川崎 栄一		③ 衿寝北侯院を領した黒木氏について	27	⑫ 南北朝時代の衿寝氏 (1)	23
蚊帳	1	④ 大隅国の設置と	28	⑬ 中世における衿寝氏の庶流	24
川崎 大十		豊前・豊後からの移民		⑭ " (2)	25
① 大隅地方における島津氏の		⑤ 中近世における根占と	31	⑮ 池端文書	26
対豪族政策	13	種子屋久・琉球・中国との関係	33	⑯ 五輪塔の起源をもとめて	27
② 長島の古墳	16	⑥ 根占・諏訪宇都の板碑について		⑰ 衿寝氏の出自について	
				根占地方における修験道の遺跡	
				西南の役に関する	

警視出張所文書	30	36	根占港の今昔	42	9	『落日後の平家』を読んで	11
農事先覚者・下村重磨氏と	30	37	肝付の島津庄の寄郡と国衙領	42	10	大隅・恒吉 現地研究報告	12
農事小組合の起源	30	38	——肝属の歴史(2)	42	11	大隅における古鏡について	14
ザビエルを案内した	31	39	南北朝期の肝属	43	12	歴史的に観た大隅地方の	15
「パウロ・ヤジロー」について	31	40	——肝属の歴史(3)	43	13	過疎問題について	15
高木城(佐多城)跡について	32	41	祢寝重張・関ヶ原従軍記	44	14	肝付氏二男家萩原氏の顛末	16
西郷さんと小根占	32	42	根占の民俗神	44	15	神話に現れる神々の系図	17
祢寝氏十六代重長の遺跡と遺物	33	43		44	16	熊野神社の宝篋印塔について	18
根占地域の製鉄跡について	33	44		44	17	私の好きな名文章三編	19
戦国武将祢寝重長の動き	34	45	木佐貫 直樹	45	18	串良の語源と地名について	19
根占地域のやぐら(岩屋)	35	46	川路迪郎 志布志百首	46	19	大郷串良の社寺について	20
根占地区の寺院跡(1)	36	47	遺歌	47	20	「高山のかくれ里」考	21
大根占天神下の笠塔婆について	37	48		48	21	神武天皇御出航地・柏原と	21
根占地区の寺院跡(2)	37	49	北園 博	49	22	大和の地名	21
「(3)」	38	50	郡内神社についての研究	50	23	21 龜山殿の一町屋敷	22
高野山僧侶の佐多辺塚への流罪	38	51	高山町の観光案内	51	24	22 二階堂家の由緒	23
高城跡から祢寝北侯院の展望	39	52	東串良町の経済史	52	25	23 肝付水田地帯の田の神像について	23
根占町の山城跡	40	53	波見の地理的概観と神話	53	26	24 西方物語	24
大隅国と熊襲国	41	54	貞婦か姦婦か「阿南御前」	54	27	25 高山町の土踊り	24
——肝属の歴史(1)	41	55	肝付河畔の水神踊りについて	55	28	26 東方物語	25
根占地区の山城跡	41	56	大隅における結婚習俗について	56	29	27 霧島の聖域に浸る	25
続・ヤジロー考	41	57	大隅における古代の葬制について	57	30	28 大隅半島における海防記	26

②⑨ 肝属東南部における祠堂	27	①③ 新聞に見る大隅 (大正編)	44	① 高山の田の神めぐり	35	① 救仁郷 繁	36	① 救仁郷 建	36
③⑩ 東串良町の産業文化概史	28	①④ 大隅行政管轄の変遷——肝属編——曾於編	45	② 西之表市現和の石碑と史跡	36	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
③⑪ 消え行く肝付地区の武家門	29	①⑤ " "	45	③ 種子島の西南之役戦没者	37	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
③⑫ 大隅河畔の八月踊りの	30	①⑥ 大隅の山と川 (1)	46	④ 慰霊碑を訪ねて	37	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
③⑬ 古代よりの大隅半島の 地名と歴史	31	①⑦ " "	47	⑤ 小野重郎先生のこと	39	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
① 鹿屋と飛行機	26	①⑧ " "	48	⑥ 西之表市の移住記念碑	38	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
② 赤字廃線に瀕する大隅鉄道	29	①⑨ 木下 ふさを	49	⑦ 戦中・戦後の思い出	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
③ 曹洞宗と大隅への本支流	31	② 歴史の流れ	5	⑧ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
④ 大隅への回顧 (1)	34	③ 南国の歌行脚	6	⑨ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑤ " (2)	35	④ 種子島への郷愁	7	⑩ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑥ 鹿屋と飛行機 (2)	36	⑤ こぼれ史談	10	⑪ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑦ 大隅への回顧 (3)	37	① 肝付氏庶流田中氏と	17	⑫ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑧ " (4)	38	② 棒踊りと放れ牛	24	⑬ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑨ 大隅の医師 (1)	40	③ 田中神社神体説	25	⑭ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑩ " (2)	41	④ 桐原 忠利	25	⑮ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑪ 軍歴回顧	42	⑤ 家久公に殉死した寺原早介の	25	⑯ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37
⑫ 話題三つ	43			⑰ 救仁郷 繁	48	② 救仁郷 繁	37	② 救仁郷 建	37

④ 藤原姓図師氏系図考	30	② チンガラツからの芽生え	48	⑨ 国見 秀山	48	③ 家譜回遊 (1)	38	⑤ 〃 (3) 隼人考 1	40	② 〃 (2)	37
③ 鹿屋原を求めて	29	① 玉音放送から歴史的五日間のわが大隅	48	⑧ 「飯隈山由緒紀帳」を読む (1)	47	④ 〃 (4) 隼人考 2	39	⑦ 〃 (5) 島津庄 1	42	③ 〃 (2)	38
② 鹿屋市内の古石塔分布について	27	② 十七歳の生娘・磐山開拓の歩み	49	⑥ 〃 (4) 隼人考 2	41	⑤ 〃 (3) 隼人考 1	40	⑦ 〃 (5) 島津庄 1	42	④ 〃 (4) 隼人考 2	39
① 祇川地方における庚申信仰	25	① 限元 信一		⑤ 〃 (3) 隼人考 1	40	③ 〃 (2)	39	⑦ 〃 (5) 島津庄 1	42	④ 〃 (4) 隼人考 2	38

⑧ 道隆寺の石塔群	50	⑤ 長谷城の戦いと古石塔	31	⑧ 霧島神宮御神火祭	10	⑥ 鹿屋市の古石塔分布について	32	⑧ 久米村 才二	10	⑦ 鹿屋の庚申塔分布について	35
⑦ 鹿屋の庚申塔分布について	35	⑥ 鹿屋市の古石塔分布について	32	⑦ 霧島神宮御神火祭	10	⑤ 鹿屋の庚申塔分布について	35	⑥ 久米村 才二	10	④ 道隆寺の石塔群	50
⑥ 鹿屋の庚申塔分布について	32	⑤ 鹿屋市の古石塔分布について	32	⑥ 霧島神宮御神火祭	10	④ 鹿屋の庚申塔分布について	35	⑤ 久米村 才二	10	③ 道隆寺の石塔群	50
⑤ 鹿屋の庚申塔分布について	31	④ 鹿屋市の古石塔分布について	32	⑦ 霧島神宮御神火祭	10	③ 鹿屋の庚申塔分布について	35	④ 久米村 才二	10	② 道隆寺の石塔群	50

② 大空に散った若桜	49	③ 西郷小兵衛の墓	22	④ 中・近世の港内之浦	20	② 六郎館県有林の由来	47	④ 高屋神社考	2	② 戦後六十年に寄せて	48
① 除夜の鐘と元旦の風習	40	② 大隅の山	21	③ 平家の伝承地・内之浦大浦	19	① 六郎館県有林の由来	47	③ 大隅地方の諺	10	① 戦後六十年に寄せて	48
③ 歌は流れる	41	① 西南の役遺聞	21	④ 平家の伝承地・内之浦大浦	19	② 六郎館県有林の由来	47	④ 大隅地方の諺	10	② 戦後六十年に寄せて	48
② 歌は流れる	41	③ 西郷小兵衛の墓	22	③ 平家の伝承地・内之浦大浦	19	① 六郎館県有林の由来	47	③ 大隅地方の諺	10	② 戦後六十年に寄せて	48

① 大隅南部 古代文化の考察 11 3
② 伊能忠敬と大隅半島の測量

近藤 和代

牛馬の制御法 37

近藤 津代志

① 太郎踊り 23
② 平田神社の夏越祭 25
③ 牛越え祭 26
④ 団子 35
⑤ 御崎祭り 38
⑥ 知覧町の炭焼き 39
⑦ 平木 40
⑧ 南九州における仏壇の起源 42

さ 行

税所 薫

① 財部の地名考 34
② 吾平町福師岳の石窟内三尊仏石 36

③ 雲岩山仙遊寺と吉田大明一円 38
④ 藤姓相良氏庶流 永留氏 42
⑤ 円野神社の阿比留文字 42
⑥ 我が郡の不可解な物語 42

坂元 ちづ子

① 粟の穂の垂るる里 36
② お婆の特効薬 37
③ 上別府のあんだ(阿弥陀)どん 40
④ 大崎町とどろき下井手と 41
井手籠秋次物語

笹川 満堯

① 馬毛島の「王籠」考 4
② 薩摩悲恋史・阿久根千代女物語 5
③ 種子島の広田遺跡について 6
④ 考古学よりみたる種子島 7
⑤ 点の中の考古学 10
⑥ 篠河氏系図(1) 11
⑦ " (2) 12

佐々木 実然

① 竹馬の友・高木伝蔵君を偲ぶ(1) 48
——内地での体当たり第一号
② 昭和十三年岸良風水害誌 49
③ 高木伝蔵君を偲ぶ(2) 50
④ 今果たす父母の願い 50

佐藤 敬順

① 種子島分跡についての一考察 10
② 国旗・日の丸考 14

鮫島 宗美

鯉節

澤 俊文

① 先人たちの偉業 42
② 写真屋さんの半日 48
——祖父の日記より

沢 文男

知られざる大墓 15

重久 光彦

- ① 今も生きている山神講
- ② 消えていく正月のしきたり
- ③ 如知山含粒禪寺について
- ④ 西俣城と大山元帥
- ⑤ 高山町道隆寺について
- ⑥ 失われ行く地名(1)

——鹿屋市南町一帯の地名

- ⑦ 失われ行く地名(2)
- ⑧ 大隅の古戦場録
- ⑨ 鹿屋牧の史的考察

志戸本 耕造

肝付兼重の勤王事績

御前講演について

篠原 有幸

大東亜戦争終末期の牛根松ヶ崎地区

篠原 涼

- ① 我が家の祖先を尋ねて
- ② 幕末の志士二傑

15 16 21 23 24 25 27 29 33 35 36 42 45 48 18 22 23

③ 薩摩藩志布志郷の関所について

④ 鎌倉に祖先の墓を尋ねて

⑤ 中世の山城・蓬原城

⑥ 西南の役 志布志郷五番隊

⑦ 藩政時代の日州諸県郡志布志郷

池辺兄弟の悲劇

篠原 雅雄

① 史談会についての感想

② 天孫御駐蹕の伝説について

③ 万八千神社の神舞について

④ 笠之原 今昔物語

⑤ 串良町 平和公園

篠原 亮

① 田代宝光寺 古年代記の研究

② 西郷隆盛の思想についての一考察

③ 肝属郡田代町における

電話の発達について(1)

④ " (2)

⑤ 横山安武と田代の花瀬川

⑥ 田代町における

33 35 36 42 45 1 3 5 14 16 2 26 29 30 31

③ 電話の発達について(3)

⑦ 島津斉彬の大隅巡視(1)

⑧ " (2)

⑨ " (3)

⑩ " (4)

⑪ " (5)

芝 宏

大隅剣豪伝

島戸 堅磐

① 神武天皇の伝説

② 東串良における神代の研究

島戸 斎宮

① 大塚神社の三大神事

② 東串良の諺

下伊倉 肇

下伊倉城に憶う

33 34 35 36 37 39 10 1 2 22 23 46

下大川 司

根占の遺跡概要と

大中原遺跡発見の二十ミリ機銃

44

園田 千代志

① 高雲加瀬田ヶ城

② お城ヶ山

2 1

瀬々 宏遠

① 日本神話の発祥地

霧島山について

② 辛島氏と熊曾

24 25

瀬戸山 計佐儀

① 南九州における高山彦九郎の足跡

② 南九州における古代仏教

③ 近世における南九州の時宗

④ 社頭の無認可説教事件

18 21 23 25

園田 良賢

① 富山姓大始良一族について

② 大始良付近の石仏

③ 奄美大島における平家伝承の

史的考察

21

④ 西南の役と大始良

⑤ 伴姓北原氏の出自に対する

⑥ 疑問と一考察

北原氏について

14 20 21 22

た 行

高津 修

名越一族について

17

⑦ 串良町中郷の肝付氏宝塔

⑧ 陣の尾古戦場と後日物語

⑨ 近世大始良郷の構成と

麓の武家集団について

⑩ 『嵐翠点雜俳集』の編者如水について

⑪ 再び藤姓富山氏について(1)

⑫ " (2)

⑬ 吾平町下名川北の石塔群の復元

⑭ 再び藤姓富山氏について(3)

⑮ " (4)

⑯ 曾於郡有明町の石塔の一、二

⑰ 戦国に生きた女達

⑱ 曾於郡有明町の石塔の紹介

⑲ 石塔は語る「或る歴史」

⑳ 石造りに見る六地藏の表現

23 23 24 24 25 26 26 27 29 29 30 31 32 33

①	種子島上代の仏教について	13	①	大隅における武田姓の人々	46
②	種子島の温座祈念について	17	②	歴史から学ぶ事	49
	高重 義好		③	——大隅と金沢(北条)氏	50
	高野 秀信		④	古代史を俯瞰する	50
	愛国心と民主政治	5	⑤	田尻 俊充	24
	竹之井 敏		⑥	倭寇の起源と大隅	24
①	大脇周辺の伝説と民俗	21	⑦	武田 悦孝	48
②	道隆寺回顧	21	⑧	高山町川上での思い出	48
③	江戸末期における高山郷の手習い	22	⑨	竹之井 百合子	50
④	島津岩子夫人の碑を訪ねて	23	⑩	道隆寺残影	49
⑤	江戸から薩摩まで	23	⑪	柳井谷之陣跡	48
	——野村伝之助氏の道中日記		⑫	終戦前後の記録	47
⑥	特別攻撃隊K251V隊員	23	⑬	二本松 今昔物語	46
	日達一英手記		⑭	葛生の阿弥陀堂考	45
⑦	長能寺石塔復元記	24	⑮	弁才天の社	45
⑧	神話の中の南九州の女性たち	25	⑯	「於諸所御答可申上大概覚・高山」について	44
⑨	宇都上遺跡採集物について	26	⑰	野村伝四遺稿(薩摩義士)	44
⑩	藤姓小野原家の由緒並びに系図	27	⑱	——江口盛則家文書	
⑪	女大学と女性像	29	⑲	地名に残る牧と牛馬神	32
⑫	文豪夏目漱石と野村伝四	30	⑳	高山の水神と碑文	33
			㉑	高山の石仏と仁王像	34
			㉒	高山の庚申塔と石敢当	35
			㉓	下甕島手打の郷土の	36
			㉔	高山移住について	37
			㉕	歴史の証人——高山の墳墓	38
			㉖	山上の廃寺跡	39
			㉗	高山の検見崎城跡	40
			㉘	「求麻陣」考	41
			㉙	高山郷の武家屋敷について	42
			㉚	南州翁遺聞	42
			㉛	野村伝四遺稿(母のへそくり他)	42
			㉜	盛光寺跡	43
			㉝	——肝付氏累代の墓地について	43
			㉞	野村伝之助・帰国道中日記	43
			㉟	道隆寺跡の整備と現状	44
			㊱	良清軒墓地と長山阿弥陀堂跡	44
			㊲	鈴木流やわら秘伝	44

③ ②	長島町史への招待 (1)	26	①	田中 靖基	22	⑨	桜島大爆発の思い出	11
" (2)		29	②	串間市の文化財	50	⑩	有明町蓬原の五輪塔について	12
			②	串間市福嶋の隠れ念仏		⑪	百引百年史	13
①	立木 与四郎	6	①	築地 健吉	2	⑫	諏訪両神社	14
②	郷土研究の資料	7	①	白野夏雲翁	3	①	故郷礼賛	1
	封建時代における南大隅と兵乱		②	旅日記	4	②	大和めぐり	2
	伊達 洋子	43	③	中津神社の鉤引き	6		鶴田 淡水	
	明治の旅人 (西目から東目へ)		④	桜島	8		鶴丸 英雄	
	立元 泰三	48	⑤	西郷菊次郎小伝	10		鶴丸家の系図	23
	月月火水木金金		⑥	道路	12		寺師 見国	
	立元 良三	48	⑦	真幸文化				
	高須は戦場だった		①	鶴田 静麿	2	①	南隅各神社の鏡を拝観して	1
	田中 為雄	15	②	タツシどんの岡	3	②	経塚 (大隅月野) のついて	2
①	関ヶ原における	16	③	西南の役と百引	4	③	大隅地方の地下式土壙	3
②	押川弥兵衛と島津義弘	17	④	地頭 高崎正風	5	④	高山古墳より出土の蔵手刀	4
③	垂水と日向高崎		⑤	徳光ヶ丘	6	⑤	県北部にある特殊古墳	5
	霧島信仰		⑥	狩出原	7	⑥	大口市から出た石槍 (遺稿)	6
			⑦	双子塚	8		東郷 実賢	
			⑧	茶屋之元随想	10	①	神話と科学の交叉点	2
				百引の門割り制度				

(付・枕崎の平家部落板敷)

⑭ 平家の日向灘南下と椎葉

⑮ 日向椎葉再考

⑯ 肝付兼統終焉地の異説

⑰ 『落日後の平家』増補版に際して

永井 睦夫

十七文字羅列歳時記

曾於郡名論議の経過

中内 四郎

中川 宗二

① 月野・久保崎観音由来記

② 月野誌抜粹

③ 月野川天神堰堤由来記

④ 薩摩節

⑤ 月野観音小唄

⑥ 月野下岡出土品経筒について

⑦ 回顧

⑧ 松尾城

⑨ 西南の役 曾於地方における

内藤 喬

佐多民俗・植物誌

永井 彦熊

① 襲の国の考察(一)

② 大隅の鴻儒・九華と足利学校

③ 襲の国の考察(二)

④ 安徳天皇と牛根境の陵

⑤ 大宰管内誌に現われたる串良と

その沿革

⑥ 襲の国の考察(三)

⑦ 源三位頼政の鶴と福山廻城

⑧ 島戸先生を悼む

⑨ シナ(中国) 古文獻に現われたる

稻及び米について

⑩ 平家滅亡と我が三州

⑪ 平家の末路と南九州

⑫ 松山町松尾城の築城について

⑬ 平家の末路と南九州

——主上の日向灘南下

② 串良・吾平の地名について

③ 再び吾平地名について

④ 言葉から見た黎明文化と日本

⑤ 俳句(東郷砂根人)

⑥ 財部・竜虎城について

⑦ 鹿屋航空博を追想して

——郷土館余録

⑧ 渋谷氏の研究

堂地 続

① 大隅における平家の落人

② 唐仁古墳群について

③ 南国情緒豊かな佐多民謡

④ 垂水市牛根境の遺跡について

⑤ 大根占河上神社と火祭りについて

遠山 盛円

大隅における平家の公達

——行盛の後裔を探る

⑩ 処世訓	加治木出身戦死者	15
⑩ 大隅地方の農村	明治の正月の女子供の手毬の事	16
中川 如水	別離の感	12
長崎 貞治	① 吾平山上陵	1
	② 吾平山上陵に関する伝説	2
	③ 吾平の筒迫城と松下城	3
	④ 鵜戸権現と荷掛原	4
	⑤ 吾平地方の伝説	5
	⑥ 吾平の沿革	8
	⑦ 吾平地方の伝説	10
	⑧ 吾平町の伝説	11
	——白馬駆け上る池山	11
⑨ 地方の俚言		12
⑩ 日当山侏儒どんのこと	(1)	14
⑪ "	(2)	15
⑫ 北・南米を訪ねて		16

① 垂水人形の由来と現状	中島 信夫	34
② 日本一級の貝塚	——垂水・終原貝塚	47
③ 垂水海軍航空隊		48
④ 震洋隊基地(新城)		48
⑤ 檣柴の茶壺について		49
⑥ 五百年目の勝軍地蔵		49
⑦ 垂水の戦災復興と製塩		50
中島 不二夫		5
平公重長尊像		
中島 勇三		37
① 古代の大水駅を考える		37
② 部下願(ぶさがりねがい)		38
	に見る月野村百姓の悲鳴	38
③ 鎮西鎮台の一兵士の記録		39
④ 非常日誌		39
	——西南戦争下の村人達	39
⑤ 投谷八幡神社と祭祀		40
⑥ 於諸所御答可申上大概覚		41

⑦ 地名考		41
⑧ 模合上納と模地		42
⑨ 海江田成介の戦傷移送日記		43
⑩ 岩川郷創設百三十年を顧みて		43
⑪ 地名散歩(1)		43
⑫ 大谷村検地竿次帳から		44
⑬ 地名散歩(2)		44
⑭ 弥五郎どん考		45
⑮ 地名散歩(3)		45
⑯ "	(4)	46
⑰ 雑記——最勝寺文書から		47
⑱ 史実の検証		48
	——笠木原開田を調査して	48
⑲ 地名散歩(5)		49
⑳ "	(6)	50
永田 時吉		1
① 米作の移り変わり		3
② 新城史(1)		3
永田 良吉		
創立十周年を祝して		9

[illegible]

⑦	東串良の鷹石	2
⑧	新観光地・佐多の性格	3
⑨	鹿屋祓川町の水神祭と八月踊り	10

は 行

吐合 親二	48
① 忘れ難き人 福元保さん	49
② 昭和四年津代方面の山崩れ	48

吐合 スミ	48
岸良最初の空襲	48

橋口 満	45
① 入部清左衛門兼吉翁 の事績について	46
② 川辺郡士族移住小史	48
③ 松山郷士諸家の系図帳に見る郷替	48

橋本 達也	48
岡崎古墳群第四次調査の結果	48

檀山 文次(楨宏)

① 大唐国北京王の観音像 野方へ	2
② 荒佐野集落年表	3
③ 数え歌	4
④ 荒佐野文書	4
⑤ "	5
⑥ "	6
⑦ "	7
⑧ "	8
⑨ 有明蓬原古墳群	10
⑩ 荒佐野文書(6)	10
⑪ 由つて来るもの	10
⑫ 志布志湾沿岸の神話 に関する私見	11
⑬ 殿丘	12
⑭ 一片の文書	12
⑮ 沖繩の白銀堂と志布志の人	13
⑯ いろいろ	13
⑰ 有明町の板碑	14
⑱ 日向地誌とこれに見る西志布志村	14
⑲ マナカ考	14
⑳ 有明町伊作田地区の石の文化財	16

⑳ 大隅史談会名誉会長

故永田良吉先生を憶う	16
⑳ 瀬戸五右衛門と五左衛門	17
㉑ 大崎名勝誌「飯隈山由緒札帳」	18
㉒ 石仏巡礼	18
㉓ 曾於南部の平家伝説の資料	19
㉔ 大崎郷士根元世代記(1)	20
㉕ 西郷暗殺の企て	20
——志布志日記より	21
㉖ 伊勢参宮記	22
㉗ 笠野原飛行場設置について	23
㉘ 大崎郷士根元世代記(2)	24
㉙ "	26
㉚ 藩政時代の開田	26

畠山 貢

史跡を訪ねて五千キロ	29
馬場 常義	7
偶感	7

夢のまた夢	13	日高 吾平	① 河俣政幹「戊辰戦役従軍日記」 ② 日向日記(1) ③ " (2) ④ " (3)	27 32 33 34
浜田 亀峰	6	日高 幹子	① 高山町日高家近世の婚姻関係 ② 昌林寺墓地ものがたり ③ 明治中期における建築について ④ 大隅高山郷の武道について(1) ⑤ " (2)	27 35 36 37 38
大隅史談会に寄す	17	東 行雄	① 海軍と短剣に憧れて ② 日本海海戦百周年記念式典に参加して	48 49
林 祐直	48	久永 英之助	① 南溟の暗夜に荒波を泳ぐ	48
根占の入定石庵について	6	久永 良鹿	① 「蒲」考 ② 「内之浦郷 絵図」について	41 48
秀村 選三	9	日高 友治	① 住居址 ② 肥田木 重文 ③ 高、寿覚、一覽、玄岱のこと	35 16 1
幕末期大隅におけるアジールの痕跡	35	平山 武章	① お由羅騒動と種子島 ② 種子嶋家系図 ③ 種子嶋宗教史考 ④ 種子嶋文禄・慶長記	16 17 17 18
守屋家「耕作日記」の一考察	27	平泉 澄	講話(講演会の記録・再掲載)	27
天保期の大隅国	50	深江 洋一	① 串間出土の刀銭 ② 串間出土の穀壁について ③ 天保にせ小判 ④ 志布志街道の並木松記念碑 ⑤ 深江氏の盛衰	39 40 46 47 48
高山郷における災害の記録	35			

⑥ 昭和初期頃の串間市

旧福島町地域の風習

49

福谷 平

志布志大慈寺と道隆寺跡との交流

50

藤岡 恒弘

隠れ念仏とミニ仏

50

二川 栄二

① 根占町柑橘園の歴史(1)

② " (2)

27 21

堀口 栄納

① 兄・島戸堅磐を語る

② 史蹟随感

5 4

本田 碩孝

① 大浦の民話探訪記

② 佐多町大浦の民話探訪録

③ 阿久根市尾崎の民話をめぐって

26 27 29

ま 行

牧 工

内之浦の「おつや踊り」

41

牧本 文男

① 隈田原兄弟と仁王像

② 身近な伝説と謎

③ 古戦場を歩く

36 46 47

増山 親重

① 狭名田考

② 春山御馬追い考

③ 霧島神宮旧参拝路付近の遺跡

④ 遺跡発掘行

18 20 21 21

俣野 正二郎

① 系図の誤伝

② ます女売券

③ 櫛間院年貢注文の研究

④ 島津の駅

⑤ 鎌倉期の地頭

18 19 20 22 23

町園 仁済

① 徴兵による海軍の軍人生活

② 人生行路

48 50

町田 満男

① 記録

② 藩政時代 垂水の文化と

③ 中世における垂水の豪族(1) 主なる人物

④ " (2)

⑤ " (3)

⑥ " (4)

⑦ " (5)

⑧ 垂水と佐土原(1)

⑨ " (2)

⑩ " (3)

⑪ " (4)

19 20 22 23 24 25 26 27 29 30

松下 兼知

大隅地方に散在する小人について

5

①	恒吉村の旧跡	11
②	福山野牧と恒吉	12
③	大隅恒吉・日輪城の攻防戦	12
④	恒吉における大隅史談会	12
⑤	妙見温泉	13
⑥	せんだんの枝	13
⑦	学校移転に際して	14
⑧	氏神の祭日	15
⑨	若き乙女と	15
⑩	義久公征肝属給事	16
⑪	大隅短歌会だより	16
⑫	大隅町文化財について	17
⑬	大隅短歌会	17
⑭	米寿	18
①	松下 高明 大隅古代前史への断章 (1)	48
②	" (2)	49
③	" (3)	50

①	大隅史談会に寄する事ども	1
②	大隅史資料集	2
	松田 鶴声	
	書初め	
	松田 矢吉	
	串良旧領擾乱記	10
	松永 章	
	風水害の思い出	49
①	イバドン考	15
②	伝・平景清の鎧について	18
	松元 十九	
①	明治時代の金融 ——鹿屋地方における模合座	15
②	鹿屋における文学活動史の控え	17
③	大正時代・鹿屋衛生組合の活躍	18

④	鹿屋野町研究序説	20
⑤	薩摩士風と文化 辞世かれこれ	21
⑥	鹿屋の商家古文書雑感	22
⑦	兵児言行録	23
⑧	ある兵児の殉死	24
⑨	薩摩弁慶物語	25
⑩	投馬国はどこにあったか	26
⑪	物語 隠れ上意討ち	27
	松山 あつ子	
	回想	
	溝口 照男	
	東串良町の田の神について	45
	緑川 創生	
	幻の邪馬台国はここだ	32
	緑河 由香	
	「かごめ歌」にまつわる謎を追って	36
	宮下 満郎	
①	田代村の構成と発展	4

森田 慶信

① 幕末の薩摩藩における

東目型門割りと下人

13

② 竹島の秘話と古文書

22

③ 神野と美里神楽

32

④ 薩摩峠物語—人配(にんべ)峠

33

⑤ "

34

⑥ "

35

⑦ "

36

⑧ "

38

⑨ "

39

⑩ "

40

⑪ "

41

⑫ "

42

⑬ 方限りについて

43

⑭ 幕末薩摩藩における

44

東目型門割りと下人について

森 友直

① 種子島時堯の由緒

4

② 王の山祠堂記

10

守屋 利幸

① 伊地知氏の出自に関連して

25

② 比企氏と秩父氏一族

26

③ 島津氏と島山氏

27

④ 再び伊地知氏について

29

や行

八木 辰守

衾寝重長和議次第記

10

安田 辰巳

大隅開発の構想

3

安水 遥

① 鳥越山の伝承

25

② 藩政時代の開田

26

③ 隠れ念仏を考える(1)

27

④ "

29

⑤ 秘境・大鳥峽は上代八ヤトの古城

30

⑥ 古代の名馬「日向駒」誕生

30

のルーツとわが先祖たち

⑦ 路傍の地名考

31

⑧ 農家と西南の役

32

⑨ 大鳥峽付近に見る

33

都城街道の変遷

34

⑩ 山重太吉翁と開田

35

⑪ 昔の井戸

36

⑫ 語り伝え 人配二世・三世たち

37

⑬ 謎の立石

38

⑭ 字源考

38

⑮ 牛の使役

39

⑯ 有明町の古寺跡

40

⑰ 菱田川

41

⑱ 有明町の平家落人部落

47

宿利原中学校郷土研究会

宿利原の民話

19

山口 慎一

① 柳川史談に見られる薩藩の事など

5

② 郷土史雑感

6

③ 日本人と中国人の南国的性格

7

山口 登	私の歩いた昭和の小みち	48
山口 栄之	大隅という名	3
① 大隅という名		3
② 短歌		3
③ 大隅波見・観波桜の由来		8
④ 楠田淡水		10
⑤ 南隅擾乱記		25
山下 喜美恵	平和の火よ 永遠に	48
山下 修二	「私の戦争体験」あとがき	48
山下 正吉	陸海空三軍に関わった私の戦中	48
山下 光秋	赤き花	1

山下 実	① 称寝重長公について	1
	② 吾平紀行	1
	③ 大隅開田事業の功労者について	2
山添 早苗	永遠の平和を願って	43
山田 勇	① 諸書に見る山田系譜の疑問点	27
	② 山田聖栄と山田昌厳	29
	③ 救仁郷氏の系譜と 木場氏の出自の考察	30
	④ 曾於・肝属の城跡	37
	⑤ 薩隅の検地と曾於郡の開田	39
	⑥ 南九州がヤマト王国（近畿天皇家） に属した時期	41
	⑦ 系図と家々の歴史	43
	⑧ 薩摩藩の土地制度の中の 百姓と郷士	44
	⑨ 伊勢家系図	45

山之内 甲	家作方二付諸覚留	45
山畑 直三	流入肝付兼命と墓守り老人のつばやき	41
山元 晃	都城史談会雑感	16
弓指 重豊	本土決戦をめざす垂水航空隊	48
吉井 虎則	佐多観光地の熱帯植物	3
四本 清徳	流血の前線も短歌を友に	48
脇田 貞国	わ行	
串良と津野氏		17

《六十号記念》

五十一号から六十号までの寄稿者

およびタイトル総覧(第五十一号～六十号)

※創刊号から五十号までの分は『大隅五十号』の巻末に掲載がある。

※五十一号から六十号までの寄稿者数は四十六名、寄稿文の延べ数は二百十九編となっている。

○凡例

- 一 寄稿者をアイウエオ順に掲載してある。
 - 二 寄稿者の姓名の次から寄稿文のタイトルを年代順に並べた。
 - 三 タイトルの上には寄稿文の通算数、下には掲載された大隅誌の号の数字を記した。
- ただし寄稿数が一編のみの場合、煩瑣を避けるため数字を記していない。

有島 悟

随筆 高山地区の史跡を訪ねて

井之上光徳

1 平成外城巡り(1)―肝属編―

2 〃 (2)

3 〃 (3) 下大隅編

井原政純

1 幕末・明治初期の大隅における郷校・小学(四)

2 (鹿児島藩歴訪) 培われた薩摩人

3 明治期の史談会創立について

4 島津日新斎および島津義久・義弘創出の「土踊り」

5 「土踊」について(その2)

6 島津藩主貴久及び義久の

弓箭のクジ取りについて

上園正人

宇都宮東太先生頌徳碑

上原義史

- 1 小学校創立頃の高須の様子をたどる
—「西南の役」前後の証言をもとに—
- 2 高須のおぎおんさまに関する伝承
- 3 高須の「主取り（御社あずかり）」について
- 4 高須への進駐軍上陸
- 5 西郷隆盛翁と高須
- 5 高須中開校記

58 57 56 55 54 53

閨野志郎

- 1 日向国諸県郡志布志郷
- 2 「田螺殿」「田螺殿」（たにしどの）
- 3 「正国寺」からの史料とこれまでのまとめ
- 4 白銀堂物語
- 5 暉峻山金剛寺住職 暉峻普瑞（てるおかふずい）師
- 6 前川筋の歴史
- 7 串間市史から見たかくれ念仏

56 56 55 53 52 51 51

江口主計

- 1 川上清左衛門親房親子について
- 2 玉置家の系図
- 3 中世からの内之浦

53 52 51

- 4 内之浦郷の街道「桜島筋」の故事来歴
- 5 古日向について
- 6 大隅の国
- 7 縄文人のハンズ

58 56 55 54

江口ヨリ

お茶と情けは濃々（こいこい）と

55

か行

海ヶ倉嘉通

寶泉庵跡古石塔群について

51

加塩英樹

岩川八幡神社の神道裁許状について

51

河俣寅雄

文鎮（遺稿）

51

木下秀磨

2 1 大隅の社寺(1) — 古代神武天皇を中心に
" (2)

隈元信一

1 鹿屋市根本原のどうやま古石塔群

2 井上(神)城跡の石塔群

3 肝付町(旧高山町)の石塔散歩

4 中世鹿屋の山城跡(萩原氏と鹿屋氏)

5 野里中島と禰寝重長について

6 中世武家達の造立した供養塔の特殊文様

7 七狩長田貫神社(田崎神社)と棟札

8 ハート文様の出現を植物文様から見る

9 垂水市本城に復元された古石塔について

10 平安末期から鎌倉時代の垂水の領主達

11 肝付氏とは

12 島津庄と肝付氏庶流

13 国合原周辺に造立された石塔から見る歴史

14 鎌倉にて

15 澁谷氏族伊牟田氏系譜

16 大慈寺と楡井頼仲を中心に

郷原建樹

1 立て! イワレ彦

52 51

57 60 59 58 57 56 56 55 55 55 54 54 53 53 52 52 51

2 大隅から見る日本古代史

さ 行

佐々木實然

1 明治四三年一月一六日

2 内之浦村美風良俗並弊風調査書

3 郷土資料及其利用方案(1)

" (2)

4 テコテン・テコテンダケ・テコテンドン

5 五郎ケ元

6 かくれ念仏

7 和泉式部・性空上人・内之浦

8 伊能忠敬測量日記(内之浦郷岸良)

9 舟木の記念碑建立について

10 岸良の空襲

篠原 亮

横山正太郎安武と大西郷

下田節子

59

51 56 55 55 55 54 54 53 52 52 51

た
行

二股川の記憶	1
道隆寺を後世に語り継ぐ歌碑	2
トロツコ	3
新留俊幸	1
大隅と朝鮮半島	2
隼人の大乱	3
弥五郎どん祭考	4
和氣清麻呂と大隅国	59
妹尾和代	56
隠された大隅邪馬台国	57
高天原神話と大隅	60
大隅の伝承にまつわる霧島神社	51
園田トヨ	
花岡屋敷	

高隈の生立ち―地名辞典参考―	51
武田悦孝	1
邪馬台国と狗奴国	2
天孫と大隅	3
古代史の空白時代を推理する	4
日本古代史上最高の英雄	5
象眼装太刀と大隅隼人	6
神武誕生	7
クマソへの旅	8
欠史八代の謎に挑む	9
古代日本と鳳凰	10
古墳時代の起源	54
竹之井 敏	51
長能寺の板碑	52
高山小学校の象徴ムクノキ	53
森田慶信先生追悼記	54
高山神社明細帳写し	51
高山郷の井堰について	52
明治時代の家屋普請について	53
湛水院跡の現状と整備	54
南隅に生きた女性たち	54

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9

長能寺墓地今昔

肝付氏歴代の墓地整備について

肝付氏系譜への疑問点

桂山城守の墓塔

高山の野町今昔

伴姓の古石塔と肝付氏

天澤了高上座の墓

風雪・天正八年

遺跡の整備について

是枝柳右衛門と高山

肝付氏歴代の墓復元

田中靖基

柱松（火祭り）

玉置美恵子

平姓玉置家系図

東膳清水

佐多町における近世農民のくらし

54 52 52 60 59 58 57 57 57 56 56 56 55 55

な 行

中島信夫

垂水島津家と篤姫

中島勇三

地名散歩（七）

篠原亮顧問を忍んで

財部町川内の五輪塔梵字について

地名散歩（八）

弥五郎どん考

地名散歩（九）

大隅の水天

ドミニカ移民

遠矢下総守の恩賞願い状と義弘公拝領兜の返納

地名散歩（十）

水物語 — 高原の水道 —

地名散歩（十一）

地名散歩（十二）

岩川八幡神社

弥五郎どん考（三）

新城の軍神碑

16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

59 58 58 57 56 55 55 54 53 53 53 52 52 51 51 51 51

中部博雄
イプシロン打ち上げ

57

は 行

橋口 満

1 『祐茂夫婦並祐正物語之記』に見る

京都大仏殿建造の材木

2 江口家起請文

3 下飯島手打の「富ケ尾・高山移住記念碑」

4 笠木原開墾起工式余興写真詳報

5 橋口六郎右衛門書簡

6 朝倉姓八木氏盛衰小史

7 岩川領主伊勢家初代 伊勢弥九郎文書

8 柳井谷開田今昔

9 薩摩武士の本名考

10 ケナサ考

11 岩川領主伊勢家二代 伊勢貞豊文書

12 小説『於雪——土佐一条家の崩壊』

13 に見る一条康政（藤原姓橋口氏遠祖の謎）

シコナ考

60 59 59 59 58 58 57 57 56 55 55 51

14 藤原姓鰐坂氏の今昔
15 岩川領主伊勢家四代 伊勢又兵衛文書
16 縄文語考

60 60 60

橋本雅子

1 父の歩み

2 国産ロケットの生みの親・糸川教授と

実験を支えた内之浦婦人会

55 54

日高幹子

1 時は流れて

2 高山と文化

3 高山こぼれ話

4 調所笑左衛門の梅とノブ（高山こぼれ話）

5 特別攻撃隊

6 高山こぼれ話

7 幕末に生きて

8 抜け道

9 『大隅』に携わって

10 努力は力なり

58 58 57 57 57 56 56 54 53 51

秀村選三

ま 行

1	嘉永年代、大隅国高山郷における災害の記録	51
2	大隅国高山郷士・宇都宮家の「年譜」	54
3	大隅高山郷二階堂家文書	
	『安政五年 日記大要』（二階堂陽之坊記述）	
4	大隅鹿屋・高山とわが友 林市造	57

平石承一郎

1	ウツガンマツイを考える	54
2	ある考察	55

平田煌二

伴姓肝付氏の系譜

58

福谷 平

1	大来目神社三百三十年祭石碑	51
2	時空を超えて・鎌倉建長寺と道隆寺跡	53
3	道隆寺跡六地藏原型復元	55
4	チダカの地名	56
5	小牧は肝付氏の牧場の跡か	57
6	推考・道隆寺跡の兼員五輪塔（墓）	58
7	柏尾山道隆寺開山七百七十年	60

穂山睦男

1	牧 工（たくみ）	56
2	ロケットの歩み五十周年に寄せて 衛星の愛称は「火崎（ひさき）」	57

松下高明

1	二つの「大倭国」の謎	51
2	葛城地方の出雲系鴨神と南九州	51
3	応神・宇治王朝と仁徳王朝の並立について	51
4	カヤ（鹿屋）考	51
5	武内宿禰の実在性について若干の考察	52
6	小松帯刀と肝付氏をめぐる断章	52
7	朝鮮半島の倭人	52
	——中国史料に見える倭人系種族——	
8	邪馬台国はどこ？	53
9	神武東征は無かった？	53
10	ウガヤフキアエズ考	54
11	楽浪（さざなみ）考	54

わ
行

渡口行雄

- 1 高山本城に思いをはせて
- 2 シラス台地の命の水
- 3 故郷忘じがたく―野村傳四の生涯
- 4 南山城に息づく隼人の魂

60 59 58 57